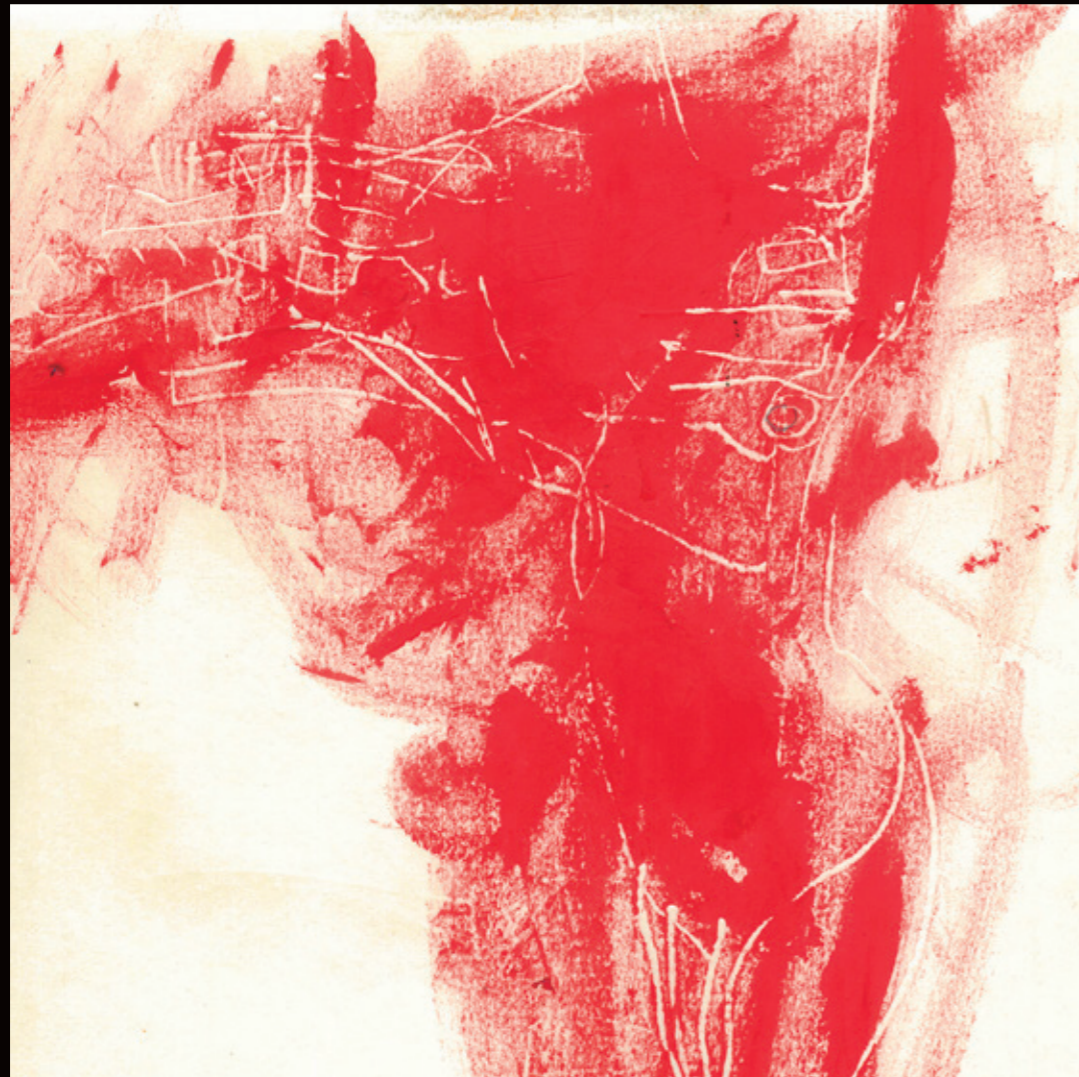


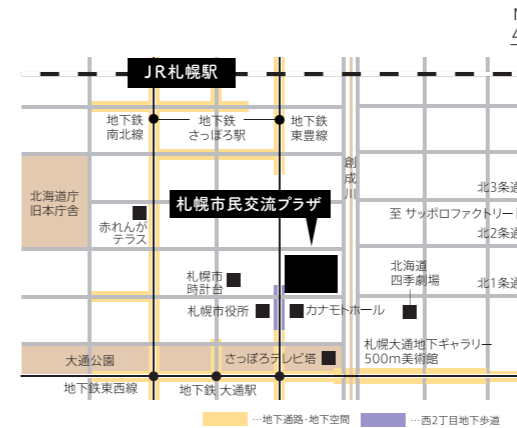
# WAVE TIMES

札幌市民交流プラザ 情報誌 [特別号]



## 札幌市民交流プラザ

SAPPORO COMMUNITY PLAZA



### 地下鉄「大通」駅直結！

札幌市中央区北1条西1丁目 さっぽろ創世スクエア

## WAVE TIMES

「WAVE TIMES (ウェーブタイムズ)」は、「札幌市民交流プラザ」のトピックスや公演・イベント情報などを発信している冊子です。

札幌市民交流プラザ 情報誌 特別号 発行 2019年10月1日

発行元

公益財団法人 札幌市芸術文化財団 札幌市民交流プラザ

〒060-0001

札幌市中央区北1条西1丁目

TEL:011-271-1000 (9:00-22:00 ※休館日を除く)

◎本誌からの写真・文などの無断転載を禁じます



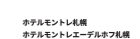
札幌市民交流プラザ



<https://sapporo-community-plaza.jp>



札幌文化芸術劇場 hitaru オフィシャルスポンサー



あいプラン、MORIHICO、伊藤組土建、岩倉建設、岩田地崎建設、大通り矯正歯科、ボルボ・カー 札幌、札幌駅前通まちづくり会社、札幌大谷学園、札幌大通まちづくり会社、札幌市交通局、札幌振興公社、札幌都市開発公社、サッポロホールディングス、ANAクラウンプラザホテル札幌、札幌マタニティ・ウイメンズホスピタル、ジェイ・アール北海道バス、敷島屋、じょうてつ、ANA、大和証券、さっぽろ東急百貨店、日本航空、富士メガネ、北海道エアシステム、北海道科学大学、北海道中央バス、北海道電気保安協会、丸彦渡辺建設、三井不動産リアルティ札幌、よつ葉乳業、北海道ガス、倉澤高圧コンクリート、旭インバックス、遠藤興産、SAPICA、三精テクノロジーズ、大成建設、大丸札幌店、どんぐり、日建設計、北海道グリーンメンテナンス、豊建商、氏家記念こどもクリニック、岡本内科クリニック、クリーンアップ、ホクリヨウ、北洋銀行、北海道銀行、朝日新聞社、阿部小児科医院、アムテック、アルシス、石狩すすらん内科、岩本・佐藤法律事務所、ウエス、AIRDO、おおしま内科胃腸科クリニック、柿崎歯科、河上水産、TAT札幌、グリーンネットワークス、ケーブラス・ロジ、札幌商工会議所、ジャパンテクニカルソフトウェア、サツイベ、しんどう医院、すすらん乗馬クラブ、蘇春堂形成外科、タイムズ24、みよしの、なんごう耳鼻咽喉科、ニューオータニイン札幌、ネクステップ、福住泌尿器科クリニック、北海道熱供給公社、北海道マツダ、ほりい総合法律事務所、マウントアライブ、明治安田生命、山二、ゆうらく、リビングワーク、六書堂、和らいふ、北海道放送、札幌テレビ放送、北海道テレビ放送、北海道文化放送、テレビ北海道

# 札幌の文化・芸術の

SPECIAL INTERVIEW

## 新たな幕開けを

## 感じます！

札幌市民交流プラザは2019年10月7日、開館から1周年を迎えます。オペラ「アイーダ」を皮切りに、バレエやミュージカル、音楽コンサート、演劇、ダンス、講演会など、さまざまな催しが行われてきた札幌市民交流プラザについての印象や思いを、施設利用者を代表して演劇ユニット「TEAM NACS」のリーダー、森崎博之さんに聞きました。

TEAM NACS リーダー

## 森崎博之

— 森崎さんは開館後「TEAM NACS」の舞台音楽を演奏するオーケストラコンサートで、札幌文化芸術劇場 hiemの舞台に立たれました。まずはそのときの感想をお聞かせいただけますか？

僕は演劇をやっていますから、開館前から「いつかTEAM NACS 5人でhiemのステージに立ちたい」という思いをずっと抱いていました。そんな中、NACSを代表して僕が出演するこの「NAC-SYMPHONY 2019」というコンサートがあったおかげで、意外と早く舞台に立ちました。というのが正直な感想です。何よりTEAM NACSの舞台を彩る音楽を手掛けてくれているNAOTOさんという素晴らしい友達を紹介したいと企画したコンサートでしたから、一緒に舞台に立てたことがうれしかったです。

### 拍手や笑いや歓声は

### 上から降り注いでくる

### 新鮮な体験を

### しました。

— これまで立たれた舞台と何か違いを感じましたか？

もちろんです。僕たち演劇人にとって、札幌にこんな素晴らしいホールができたことは「すごい時代の幕開けが来たぞー！」というくらい大きなニュース。それだけでもう快感物質がいっぱい出てくる感じでした。それに実際に立つと、4階ま



でそびえ立つ観客席からの熱量や圧迫感があるんですけど！これまで観客が横に広がることはあっても縦に広がることはありませんでしたから、拍手や笑い、歓声が厚みを持って上から降り注いでくるのが新鮮で、珍しい体験をさせてもらいました。音についても1階席と3階席でリハールを聞いたのですが、とにかく素晴らしい！詳しいことは分かりませんが、音の良さに感動しました。

— 舞台では演奏に合わせて過去に演じた複数のキャラクターで登場し、太鼓も披露されました。

七変化は自分で提案したんですが、思った以上に大変でしたね。太鼓も「HONOR」っていう舞台で叩いたことがあったから軽々しく「やろうかな」なんて言ったけど、とにかく不安で…。「HONOR」ではTEAM NACS全員で叩いたので気づきませんでした。あんなやつらでも一緒に居てはしくなりました(笑)。

—アンコールでは指揮にも挑戦されました。TEAM NACSにかかわるイベントなのに、NAOTOさんにはかりお任せしてしまっているのが恥ずかしくて、「自分も何かできないか」と考えた結果、中学時代に合唱コンクールで指揮者をやっていたもんですから、オーケストラの指揮ならできるとは思いません。約35年ぶりにタクトを振りまいた。いや、合唱コンクールとはワケが違いましたね(笑)。そもそも、お客さんにあんなに長い時間お尻を向けることがないので、ドキドキしましたよ。でも、超一流のプレイヤーの皆さんを相手にタクトを振るなんて、そうそうできることではありませんか、なんて賛沢なんだろうと優越感にhitari(笑)ができました(笑)。

—森崎さんは他に、札幌市教育委員会が主催する子育ての講演会でも講師としても舞台に立たれました。

あんなに早く二回目が来るとは思っていなかった。ビックリしました。しかも、たくさんの親子にご参加いただき、子育ての育児論を90分間も展開させていただくなんて…。歌わなければ、音楽もない。劇場を設計した人も「オペラの劇場で、育児の講演？」って驚いたと思いますよ。自分でも本業が分からなくなりました(笑)。

—森崎さんは開館前にも舞台に立たれていますよね？

え？……そうですね…よくご存知で…(笑)。北海道テレビの「ハナタレナックス」という番組で、札幌市民交流プラザが入っているさっぽろ創世スクエアに放送局ができるということで、オープ

ン前の劇場の舞台に立たせていただきました。

—そこで、あることをされたと伺っています。

その話、しますか？変なことできませんね…。実は、どれだけ音が良いのかを確かめようと僕だけ舞台上に残り、大泉洋ら他の4人に4階席に行ってもらったのですが、そこでワタクシ、オナラをしちゃいました…。その音が、4階席までしっかりと届き、「どれだけ音響設備がいい舞台なんだー」ってみんなが驚いたっていうことがあったんです(笑)。

—TEAM NACSのメンバーとは、劇場について他になんか話をされたのですか？

それはもう、「ぜひTEAM NACSで立ちたい」という話をしました。僕たちはあくまでも北海道を本拠地に、北海道という看板を背負って演劇活動をする演劇ユニットですから、その北海道に「こんなに素晴らしいホールができたのであれば、ぜひ立ちたい。札幌文化芸術劇場 hitaruは、TEAM NACSの夢ですね。」



HIROYUKI MORISAKI  
SPECIAL INTERVIEW

# TEAM NACSでは まだ立っていませんが、 札幌文化芸術劇場 hitaruは ホームだと感じています。



—森崎さん自身は札幌文化芸術劇場hitaruをどのよう存在に感じていますか？

TEAM NACSとしてはまだ立っていませんが、北海道札幌の劇場というだけでホームのように感じています。僕は北海道に演劇文化を根付かせたいという飽くなき挑戦としてTEAM NACSを続けていて、そこには何人呼びたい、ロングラン公演をやりたいといった目標はもうないんです。大規模な全国公演や海外公演をやりたいという野望もなく、唯一の欲はとにかく長く続けたいということだけ。実はTEAM NACSで、最年少の音尾琢真が80歳になる2056年に解散しますって、公言しているんです。それまで良いときもあれば悪いときもあるし、喧嘩をするこ



## 市民のことを考えた 素晴らしい施設なのを 伝えていきたいです。

ともあるでしょう。そうしたらいろいろな紆余曲折を迎えながらも長く続けるのって、非常に到達困難な目標でもあるんです。その目標を存続し、達成させるためにも、こうした素晴らしいホールが誕生したことに刺激を受けましたし、そこに立ちたい、立ち続けたいと思わせてもらえる場所ができたことに感謝しています。

—TEAM NACSが公演をするならどんな舞台を届けたいですか？

客席に高低差があり、立体的な劇場ですから、高さのある舞台をやってみたいですね。舞台上に4階建てのセットを組んで、客席と同じ高さで繰り広げられる芝居。ドリフは2階建てでしたが、ナックスは2倍の4階建てで(笑)。

—開館から1年が経ちましたが、これからどんなことを期待されますか？

実は札幌市民交流プラザにはプライベートでも来ていて、特に「モイロの箱」という謎解きのイベントが素晴らしいですね。子どもと一緒に参加したのですが、市民交流プラザを上から下まで、全部歩き回らないと解けない謎になっていて、そのおかげで施設のことをよく知ることができました。「ここにこんなスペースあるんだ」

「ここで大学生のとき勉強したかったなあ」とたくさんの発見があり、市民にとっての使いやすさや利便性などにも配慮されている設備があるのも分かりました。こういった新しい施設って、アピールが足りなくて、知っている人だけの施設になりがちですが、僕は「モイロの箱」に参加したことで知ることができましたし、この良さをもっといろいろな人に伝えていきたいと思っています。これからどんな人や情報、芸術・文化の和が広がり、札幌がより素晴らしい街に発展していくことを期待しています。



森崎博之 ● 1971年11月14日生まれ、北海道東川町出身。O型。1996年、北海学園大学演劇研究会出身の大泉洋、安田顕、戸次重幸、音尾琢真と演劇ユニット「TEAM NACS」を結成。リーダーを務め、多くの作品の脚本・演出を手掛ける。TEAM NACSの全国進出に伴い、「下町ロケット」(TBS系)をはじめとする連続ドラマや映画、全国ネットのバラエティ番組にも出演。ごはんソムリエの資格を持ち、食育の大切さ、北海道の素晴らしさを講演会などでも発信している。



# Review

Turandot / Giacomo PUCCINI

## 「トゥーランドット」

鑑賞レビュー

音楽ジャーナリスト・評論家 林田直樹

8月3日、4日に札幌文化芸術劇場 hiranu で上演された「トゥーランドット」は、イタリアの作曲家プッチーニ（1858-1924）の人生最後の傑作というだけではない。人類初の大量殺戮戦争でもあった第一次世界大戦という非人間的な出来事のととの文化状況において、プッチーニが新機軸として世に問いかけようとしていた、オペラ史に残る問題作でもある。

そこに現代の視点による独自の解釈からメスを入れようとした、2019年の音楽界最大の注目作が、今回の大野和士指揮、アレックス・オリエ演出による舞台であった。原作のような、伝説時代の中国を舞台とした物語ではなく、映画「ブレッドランナー」に通じる、暗黒の近未来社会という世界観が、その根底にはあった。

東京文化会館、新国立劇場、びわ湖ホール、と上演を続けてきて、その締めくくりとなったのが、札幌での2公演。私は新国立劇場の初日に続いて、札幌の2日間の上演に接することができた。

巨大建造物に囲まれた、希望のない谷底のような舞台。貧困にあえぎながらうごめく群衆の上に、威圧的で巨大な要塞のような黒い物体が降りてきて、そこから白く輝く皇帝とトゥーランドット姫が現れる。そのスベクタクルの凄みは、東京での上演と全く変わらないクオリティで、札幌でも再現されていた。

興味深かったのは、2日間のキャストによる違いである。



させた。静かなシーンでさえ、大群衆の奥行きのある動きと存在感が、オペラ全体にドラマティックな脈動感を作り出していた。

今回の上演で最も物議を醸したのが、ラストシーンである。このオペラは、作曲者の死によって未完に終わり、他の作曲家の補筆によって完成されているが、台本自体は愛の成就によるハッピーエンドとして完成していた。しかし今回の演出では、突然トゥーランドットが最後の大団円の幕切れの瞬間に自刃してしまう。こんな衝撃のどんでん返しは従来このオペラの上演ではまったくなかった。札幌でも、啞然としているお客さんの姿があちこちに見られた。

その賛否はともかく、熱い議論を巻き起こしたという意味では、この演出は大成功だったと言えるだろう。オペラの上演は、博物館の展示品とは根本的に違う。昔の名作であっても、現代に生きたパフォーミング・アートとして蘇らせ、観客の人生を根底から揺るがせるような、深い問いかけを作る。そここそが肝要である。それが本当のオペラである。

指揮の大野和士には、上演後少し話をうかがう機会があった。札幌文化芸術劇場 hiranu のもつ



可能性の素晴らしさを称えるとともに、今後オペラの上演も定期的に重ねていき、「響きを劇場に吸い込ませていく」ことによって、さらに音響も良くなっていくに違いないし、そのためには自分もぜひまたここに来たら、ということ話を話していた。

バルセロナ交響楽団は、1カ月にもわたる日本滞在中、「トゥーランドット」の全公演で演奏を担当したが、それも大変良いことだったと思う。演奏のクオリティが高く保たれるというだけではない。現代の演奏家たちは、飛行機とホテルと劇場の移動と効率主義のおかげで、ますます慌ただしくなっており、演奏旅行における公演先の土地との文化的な出会いの意義は薄れる傾向にある。これほど長期にわたって滞在した



ことで、バルセロナ交響楽団にとって日本は強烈な印象を与え、何かを残したはずである。彼らは札幌でも本当に楽しそうに、精神的に、エキサイトしながら、オムオムも楽しんでた。今回の「トゥーランドット」は、NHKでも放映され、日本中の音楽ファンや文化関係者に衝撃を与え、議論のきっかけとなりうる名舞台となった。その最終公演が札幌でおこなわれたことの意味は計り知れない。今後も、このクラスのオペラ公演が札幌で継続的に楽しめるようになってこそ、札幌文化芸術劇場 hiranu の真価は生かされるに違いない。

Aキャストのトゥーランドット、イレネ・テオリンはラストシーンに向かうかなり前、カラフトの口づけのあたりから、精神的な不安と葛藤がじわじわと高まっていくのが見て取れたが、Bキャストのジェニファー・ウィルソンは鉄のように意志強固な佇まいで、最後まで断固としていた。

Aキャストのリユー、中村恵理は歌の頂点においてあえて弱音で勝負し、この暗い舞台のなかで救いのように、純粹な優しさを、見事に際立たせた。Bキャストのリユー、砂川涼子は体当たりの情熱を前面に出し、意志の強い愛に燃えるヒロインを感じさせた。

合唱も素晴らしかった。一人ひとりの歌や演技の向こうに、語られる背景の奥深さを感じ

# オペラが紡ぐ 札幌の未来

いつか針生先生と  
Wキャスト共演  
するのが夢

オペラ歌手は  
コミュニケーション  
能力も大切

対談「アンダースタディ」

針生美智子 × 中江早希

札幌文化芸術劇場 hitaruの今年のこけら落とし作品『アイーダ』で巫女を演じた針生美智子さんと、今年8月公演の『トゥーランドット』でリユー役のアンダースタディを務めた中江早希さんは、ともに北海道出身。師弟関係の2人に、アンダースタディと札幌のオペラシーンのこれからについて、語り合っていました。

**中江** 北海道教育大学岩見沢校に通っていた時に、針生先生のコンサートで『魔笛』の夜の女王の aria を聴いて感動し、「すごい！」と衝撃を受けました。ちょうど教員の道に進むか音楽の勉強を続けるべきか進路を迷っていました。先生の歌声に憧れを抱き、思い切ってご連絡したところ、無事にレッスンを受けさせていただく事ができました。

**針生** 私は初めて中江さんの声を聴いた時に「ああ、これは百年に一人の逸材だ」と。生まれながらに美しい高音が出る人がいると聞いた事がありますが、これがまさにそうだと思います。それで東京への進学を勧めたんです。

**「アンダースタディ」という立場**  
**針生** 中江さんは『トゥーランドット』でアンダースタディ(以下、アンダー)を務められました。キャストの不慮の事故に備える代役のカバーキャスト(以下、カバー)が用意されることは多いけれど、勉強のために参加してほば歌うことのないアンダーは、募集も少ないですね。実はアンダーやカバーって、現場に入るだけで緊張するし、心細いでしょう。**中江** 皆さん素晴らしい方々でしたので、その場にいるだけで緊張しました。**針生** アンダー、カバーはひたすら現場で勉強ですよ。初めて歌うオペラでも音楽稽古

古ができてくる状態で、数回のコレペティートルによる稽古、そしてカバーの一度の立ち稽古で、すべての動きを身体と頭に入れなければならぬ。見て覚えるのと実際に動くのでは違うこともたくさんあり、常に張り詰めた緊張感があります。

**中江** 先生のおっしゃるとおりで、この公演に携わる人全員が、舞台をより良いものにして、と真剣に作品に向かい合う稽古場の雰囲気は緊張感は今でも忘れられません。本番のパフォーマンスをただ鑑賞するだけでなく、その制作過程である稽古から見学することができるとはアンダースタディの特権だと思っています。また今回はご好意でこのプロダクションで学んだことをお客さまの前で披露する機会もいただけたりと、稽古の空き時間に新国立劇場本公演のコレペティートルの方のレッスンを二回も受けられた

りと、私自身驚くような貴重な体験ができたことがとてもありがたかったです。こまめで手厚くサポートしていただけて申し訳ないと思っています。

**針生** アンダーは若手が経験する貴重な機会ですが、現場での身の置きどころは、なかなか難しいですよ。特に幾つかのプロダクションが重なっている時は、中江さんの朗らかなで誠実なお人柄は、周りの方々に受け入れられたと思います。しかも既に大きな舞台も踏んでいる。舞台を一緒に稽古しているキャストの方々も多数いらしたと思います。その中江さんがアンダーとして hitaru から『トゥーランドット』に参加したということ、は、同郷としてとてもうれいし、北海道の力を感ずります。**中江** 自分からキャストに質問したり、出演するイベントについて発信したり、次

に生かせる貴重なこの経験は、自分にとって宝物です。オペラ歌手という夢に対する情熱を、『トゥーランドット』が注ぎ込んでくれました。

**札幌公演は  
出演者からも人気**

**中江** 今回の『トゥーランドット』は新制作だったので、一から創り上げる現場を見られることは貴重でした。制作側も身を削ってぶつかり合い、本気で取り組んでいます。合唱メンバーの中には自分の後輩や知り合いもいたので、お互いに稽古中の疑問点などを話すことができました。

**針生** オペラは人と人とのアンサンブルで成り立つ部分があるので、コミュニケーション能力も大切ですね。最高のパフォーマンスと、愛、で出来ているのがオペラだと思います。

素晴らしい土地、美味しい食べ物が揃っている北海道でのオペラのこれからの、とても期待しています。

**中江** 今回は東京、滋賀、札幌での公演でしたが、皆さん札幌公演を本当に楽しみにしていたんです。大野和士マエストロと一緒にジンギスカンを食べに行ったりもしましたよ。北海道の風土が持つ開放感からか、札幌公演はキャストの声もより出ているような気がしました。観光地として人気がありますし、今後は芸術の街、オペラの街として札幌を知ってもらえるようになればと思います。

**針生** そうですね。早く、「札幌はいつもオペラをやっている街だよね」って言われるようになるといいですね。**中江** 私の次の夢は、針生先生と札幌の舞台でダブルキャスト共演することです。夢は大きいですね!!



Saki Nakae

中江早希(ソプラノ)

北海道教育大学岩見沢校芸術過程音楽コース声楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽研究科声楽専攻独唱科、同大学院博士後期課程修了。第25回ハイス音楽コンクールにて声楽部門第1位、第3回ジュリアード音楽院コンクール第1位ほか多数受賞。オペラ夏の祭典2019-20 Japan Tokyo→World [トゥーランドット]でリユー役のアンダースタディを務めた。



Michiko Harui

針生美智子(ソプラノ)

札幌大谷短期大学卒業、同専攻科修了。文化庁オペラ研究所第11期修了。道文化財団、文化庁在外研修員としてローマに留学。第2回藤沢オペラコンクール第1位ほか多数受賞。2018年10月、札幌文化芸術劇場こけら落とし公演『アイーダ』に巫女役で出演。2019年4月新国立劇場公演『ジャンニスキッキ』にネッラ役で出演。二期会員。

[※1] アンダースタディとは、オペラの公演の主役クラスの役者の代わりに稽古やリハーサルに参加して歌う練習ができた、役の勉強ができるキャストのこと。本番で代わりに歌う可能性がある場合は、カバーキャストとも言われます。

[※2] オペラの練習時にオーケストラ部分をピアノで伴奏して音楽稽古を行うピアニストをコレペティートル(またはコレペティウア)といいます。コレペティートルは歌手の教師役であり、稽古は伴奏だけに限らず、歌い方や演劇の指導も行われます。



# オペラが紡ぐ札幌の未来 インターンシップ事業

Human resource development

8月に開催された『トゥーランドット』の公演を控え、準備が続く札幌文化芸術劇場 hitaruのステージ裏には、大人のスタッフに交じってきびきびと働く学生たちの姿がありました。今回、地元で若手スタッフを育成するための新たな取り組みとして第一歩を踏み出した、インターンシップ事業についてご紹介します。



今回、札幌文化芸術劇場 hitaruのインターンシップ事業に参加したのは、経専音楽放送芸術専門学校（札幌）のステージプロデュースコースで学ぶ5名の学生。今年5月、1年生が授業の一環として同劇場の施設を見学に来たことをきっかけに、学校へ呼びかけて実現しました。

それぞれステージ制作、照明、音響を専攻する5人にとつて、オペラ公演の舞台裏にスタッフとして参加したのはもちろん初めての経験。『トゥーランドット』の機材の搬入から立ち会い、トラック45台分の機材が時間差で運び込まれてきて、驚きました」と口をそろえます。

舞台セットを組み上げていく様子は、まるでひとつの建物を建てるようなスケール感だったそう。コンサート・イベント制作専攻2年の瀬戸ゆめかさんと嶋美咲さんは「高さ10mの階段ができあがった、と思ったらそれはまだ一部で、その下に同じ物がもうひとつできたり、重さ7tもある巨大な機材を12本のバトンで吊り上げたり。すべてが想像を超えていましたね」。これまで音楽コンサートの制作を志望していた嶋さんは「この経験を通じて劇場や舞台に関わる仕事もいいな、と視野が広がりました」と話します。

ライティングを専攻する1年生の三上翔也さんと清水大地さんは、照明担当者の指示に従って、配布され

た図面を見ながら、LEDの電飾や配線の補助などに取り組みました。「今回は動く灯体がほとんどで、実物を見るのは初めての物ばかりでした。劇場の4階席の上にもスポットライトを調整する部屋があり、知らないことがたくさんあって楽しかったし、勉強になりました」。

音響専攻2年の辻悠那さんは「これまででは音がどう聴こえるのか、という視点に立っていました。『演者さんがより歌いやすいように』という配慮が大切だと学ぶことができました。自分の中の引き出しがひとつ増えたので、今後には生かせたいと思います」。オペラ公演の設営から撤去まで1週間携わった貴重な体験は、彼らの財産となつて将来に生かされるに違いありません。

インターンシップ事業を担当する札幌市芸術文化財団 市民交流プラザ事業部舞台技術部長・伊藤久幸さんは「若手の方のこの業界への入口として、舞台裏の現場を体験してもらうことが目的です。憧れはあっても、実際にどんな仕事をしているのか分かってほしい世界なので、大人に交じって参加することで『意外と面白いんだ』と感じてもらえたら。そしてその中から二人でも、札幌で一緒に働く仲間が育ってくればと思います」。今後は、衣裳やヘアメイクなど、別の職種の内ターンシップ受け入れも検討中です。

## PLAYBACK 2018-2019 札幌市民交流プラザ オープニングシリーズ

札幌市民交流プラザの開館年のわくわくをお送りしてきたオープニングシリーズは、札幌文化芸術劇場 hitaru のこけら落とし公演オペラ「アイダ」を皮切りに、多様な公演・イベントが開催されました。2018年10月7日の開館から2019年9月までの1年間を振り返ります。

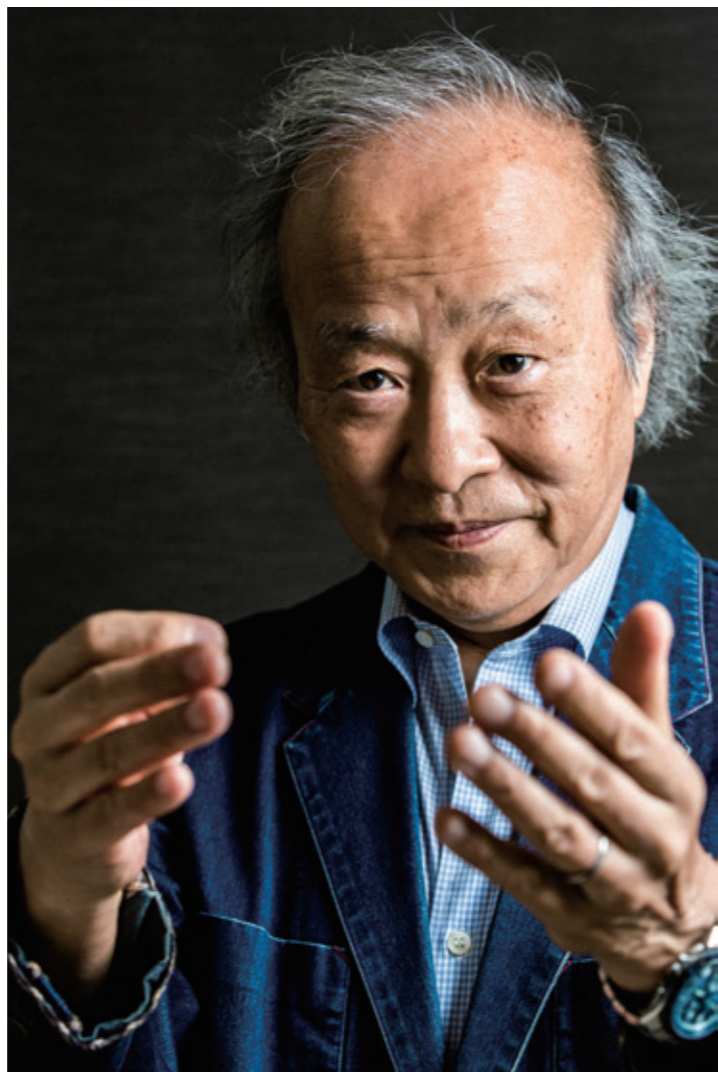
上段左から: こけら落とし公演 オペラ「アイダ」、[HANANINGEN]、「堀尾幸男 舞台美術展 乱反射」、「創成川」の151年」、PRIMITIVE実行委員会「PRIMITIVE」、スペクタクル3D能「平家物語」、[Nameless landscape]、パレエ「白鳥の湖」、フォーラム 世界演劇史 / 日本演劇史、Sapporo Photo 2018 札幌「写真都市」祭、「SAPPORO KNOWLEDGE TREE」完成トークイベント、「ゴドーを待ちながら」、Noism2、リアル謎解きイベント「モイロの箱」、山田うん コレクティブダンサーズ「春の祭典」



札幌文化芸術劇場 hitaru が誕生する前の準備段階から、  
芸術アドバイザーとして同劇場に関わってきた、指揮者の尾高忠明さん。  
昨年10月7日の開館から1周年を迎えた現在の思いと、  
劇場への期待や、今後取り組むべき課題などについて伺いました。

# 尾高忠明

音の響きも広がりも想像以上。劇場の可能性は無限です。



札幌文化芸術劇場 hitaruの開館前に「街なかの利便性の高い立地にオペラハウスの機能を備えた劇場ができるのは、この上なく素晴らしいこと」と話されていた尾高さん。約40年に渡って関わりを持つ札幌を、自らの「第2の故郷」と語ります。2017年の5月には同劇場の建設現場を視察。昨年8月、初めて観客を招き入れて音響確認などを行った「開館トレーニング」の演奏プログラムでは、自ら札幌交響楽団を指揮されました。

「音がよく伸びるし、客席で聴いた時にも十分なボリュームで広がり、強弱の差もとてもよく出ると思いました。比較的大きなホールですが、楽器をそれほど強く鳴らさなくても音が届くので、より弱音を上手く使える演奏者に向いていると思います。内装に使用されている木が年月と共に変化していくにつれ、さらに響きが増していくのではないのでしょうか。」

また、開館後の評判は東京にいても耳に届き、「札幌以外の方からも『すごいホールができたね』』と言っていただけで、本当にうれしいですね。この1年は、僕が想像していた以上のスタートを切ったと思います。コンサートホールのKitaraができたことで

札幌は都市としてステップアップしましたが、hitaruはさらに幅広いジャンルの芸術に触れ、人々が交流できる場所。街が文化的に成長する大きなチャンスです」。

今後の当面の課題はソフト面。「理想は、オペラやバレエの公演本数が増えたり、学生が気軽に観られるような格安チケットを販売できたりするといいですね」。さらに、劇場側が「ホールでできることの範囲」を決めてしまわないことが大切だとも。「可能性は無限にあります。とにかく皆さんに、あの空間に身を置いてもらうことを第一に考えたほうがいい」。

来年3月には、同劇場主催のコンサート『午後のひととき』でタクトを振る尾高さん。「懐かしの名曲からジョン・ウィリアムズが手掛けたテーマ曲まで、映画音楽を存分にお届けします。僕も今から、ステージに立つのをとても楽しみにしています」

1947年神奈川県生まれ。71年にNHK交響楽団を指揮してデビュー。東京フィルハーモニー交響楽団常任指揮者、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団首席指揮者、読売日本交響楽団音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督などを歴任。現在、札幌交響楽団名誉音楽監督、東京藝術大学名誉教授などを務め、2017年より札幌文化芸術劇場芸術アドバイザー。



7月26日	7月19日	7月13日・14日	7月5日	7月4日	7月2日	6月29日	6月22日	6月14日	6月6日	6月1日	5月24日・26日	5月21日・25日	5月19日・25日	5月16日	5月11日	5月6日	4月19日・20日
● トーク&コンサート「トウランドットの舞台裏」アンダースタディの視点から	● 第9回「まちなか夜のおんがくかい」鮭×酒	● HPP DANCE PREMIUM 2019 併催事業 ジュニアトップホップワークショップ & hitaru出演	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「作品の見え方が変わる」アーティストのための展示スキル相談室	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「公開セミナー」いま、野外彫刻の保全を考える	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術	● SCARTS レクチャーシリーズ for ARTIST 「活躍の場を広げたい」アーティストのためのセルフプロデュース術
● 女性のためのワーク・ライフ・カフェ まちのモトからみえた中央区のモト 〜まちのモト10年を振り返る〜 ドリーマーズ選挙	● プッチーニ作曲 オペラ「トウランドット」 バレエピアノリストが語る	● SCARTS レクチャーシリーズ 〜文化事業を評価するための統計分析入門〜 女性のためのワーク・ライフ・起業セミナー 〜ここから未来を創る〜	● 「め」にみえない、みみにしたい」公演関連企画 「地図のワークショップ」 作・演出 藤田貴大	● 札幌演劇シーズン2019「夏」 劇のたまご「マリグリケリム」シンデレラ	● 鈴木康広 雪の消息 / 残像の庭	● ソーシャルビジネスセミナー「札幌 新国立劇場バレエ団プリンシパルダンサーの バレエ経験者向けワークショップ discrete figures Special Edition 公演関連企画 アートXエンターテインメントの最新線 真鍋大度の創造性	● ミュージカル「レ・ミゼラブル」 〜ミューズ後のひととき公開ワークショップ チエンバロと歌うイタリア古典歌曲 hitaru 午後のひととき 〜チェンバロでひもとくヒット曲の秘密〜 ファンを生む、強いブランドの作り方① 「お隣の「コーヒー屋」さんはなんで こんなにファンが多いんだろう?」	● 北海道ダンスプロジェクト公演 HPP DANCE PREMIUM 2019	● まちなか書のおんがくかい 爽秋アンソング・ミュージック 初めての創業セミナー 〜図書・情報館からはじまる起業準備	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館	● 札幌市図書・情報館



【知っておきたいバレエ用語】

バレエ用語は世界共通で、その多くにフランス語が用いられています。



**アラベスク**  
片足で立ち、一方の足を上げるポーズ。



**ピルエット**  
つま先を軸として回転する技術の総称。



**グラン・フェット**  
上げた足の反動を利用して回る回転技。



**レヴェランス**  
舞台上で踊り終わったあとにするお辞儀。



**パ・ド・ドウ**  
男女2人で踊ること。主役級の男女がそれぞれ見せ場もありながら踊るものは「グラン・パ・ド・ドウ」と呼び、同性2人で踊るものは「デュエット」と称されます。

illustration : Minoru Kimura



**ヴァリエーション**  
主役級の人が一人で踊ること。



**コール・ド・バレエ**  
大勢と一緒に踊る群舞のこと。または群舞に参加しているダンサーのこと。

# Viva! Theater life

～ 劇場がある暮らし～

まちの劇場を、もっと身近に。舞台や劇場の楽しみ方をご提案します。

[ VOL.4 : バレエ ]

バレエには多くの見どころがありますが、その一つがバレエは同じ作品でも振付家によって見え方が変わること。振付家が違えば、ストーリーやキャラクターの性格すら変わることがあります。例えば、新国立劇場が過去に上演した「くるみ割り人形」の中でも、ワイノーン版は、大人のダンサーがずっと少女役として登場

## 作品は振付家で大きく変わる

バレエには言葉がなく、オペラやミュージカル、演劇のような台詞や歌詞が出てきません。登場人物の台詞や気持ち、感情はすべてダンサーの踊りやマイムと呼ばれるジェスチャー、そして音楽によって表現されるのがバレエという舞台芸術です。時に華麗にしなやかに、時に激しく強靱に、ダンサーの身体表現とオーケストラの生演奏が合わさって進むバレエの物語は、言語の壁も時代も超えて、心を震わせるほどの美しさと感動を届けてくれます。

## ダンサーの動きや技にも注目です

「白鳥の湖」の32回のグラン・フェット(回転)をはじめ、バレエにはダンサーたちの技を生かした見せ場が必ずあります。物語や音楽を楽しみながら、そうしたダンサーが魅せる動きや技についても、ある程度の知識を入れておくと、より一層バレエの面白さを体感できるでしょう。

ピアノ演奏とトーク、そしてダンサーとのデモンストレーションを通して、バレエと音楽の深いつながりを教えてくれた滝澤志野さんと本島美和さん。イベントは、滝澤さんの「世界中に芸術を届けたい」という思いをきっかけに企画されました。名門ウィーン国立バレエ団専属のバレエピアニストとして、稽古やりハーサル、そして本番に至るまで、常にダンサーと共にしているからこそ知る、バレエと音楽の深い関係。「それをどうしたら分かりやすく伝えられるかを一番に考えました」と滝澤さんは振り返ります。

イベントを終え、「普段、お客さんとの間にオーケストラピットがある舞台で踊っているのが、今日はすぐ目の前にお客さんがいる。距離感が違って、とても緊張しました」と笑う本島さん。新国立劇場バレエ団のプリンシパルとして、3バージョンの振付の「くるみ割り人形」を経験してきた彼女に、11月に札幌文化芸術劇場 hiranu で上演されるウイーン・イーグリング振付版の見どころを聞くと、「王子と金平糖の精のグラ・パ・ド・ドウは必見です。オーソドックスな踊りにそこまでデコレーションするのかわいいうくらい、ダンサー泣かせの難易度の高いテクニクが盛り込まれていますので、表情と合わせて見てほしいです」。

## AFTERTALK

# バレエピアニストとプリンシパルが語る 「バレエと音楽のうらばなし」

新国立劇場バレエ団「くるみ割り人形」の関連イベントとして、8月にクリエイティブスタジオで開催された「バレエピアニストが語る本当は深いバレエと音楽のおはなし」。出演された滝澤志野さん、本島美和さんにバレエと音楽について、そして11月に上演される「くるみ割り人形」のみどころを聞きました。



ウィーン国立バレエ団専属ピアニスト  
滝澤志野 (写真左)

大阪府出身。大学在学中よりオペラ及びバレエ伴奏に携わり、2004年より新国立劇場バレエ団ピアニストに、2011年よりウィーン国立バレエ団専属ピアニストに就任。バレエピアニストとしての専門性を深めながら、ソリストとしても活躍し、これまで2枚のバレエレッスンCDをリリースしている。

新国立劇場バレエ団 プリンシパル  
本島美和 (写真右)

東京都出身。牧阿佐美、三谷恭三、豊川美穂子、ゆうきみほに師事する。2001年に新国立劇場バレエ研究所に第一期生として入所し、2003年に新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。これまで数多くの主役を務めている。200年に橋秋子賞スワン新人賞を受賞。2011年にプリンシパルに昇格した。

肉体を通じて、人間自身を表現し、自然と対話する—舞踊家・能藤玲子。  
1986年に上演された「風に聴く」は、彫刻家・砂澤ビッキの作品を舞台美術とした代表作。  
自然への畏敬を表す研ぎ澄まされた世界が、10月18日・19日にクリエイティブスタジオで上演されます。  
「風に聴く—みたびまみえる—」。制作中の氏に、舞踊への思い、砂澤ビッキとの思い出などを伺いました。

【連載】アーティストボイス

# 「風に聴く」を聴く

舞踊家

## 能藤玲子



### モダンダンスに魅せられ 舞踊の本質を追求した修行時代

—能藤さんと舞踊との出会いについて聞かせてください。  
私は網走で生まれ、6歳から藤間流の日本舞踊を習い始め13歳まで続けました。その後戦争でお稽古をやめ、終戦後、女学校で舞踊家・石井漢さん門下のダンスの先生からモダンダンスを習いました。日本舞踊は型が多くて窮屈な気がしていましたが、モダンダンスは外に開く自由な踊り。解放されたという気持ちで強く、とても夢中になりました。

—女学校を卒業後、教員になられたんですね？

はい。初めは音根内という山中の中学校に赴任し、その後、網走の中学校に赴任して舞踊家・邦正美に出会いました。当時、邦正美は教育舞踊研究会を組織し、全国的に活動を開始した頃。札幌の北海道学芸大学現・北海道教育大学）を拠点に、年に3回合宿を行っていて、その知らせを聞いた私は列車に飛び乗って小樽の親戚の家へ。そこから通い、ひたすら邦正美のダンスを勉強しました。

—その後、邦正美さんに師事されたんですね？

1957年に教員を辞職して上京し、邦正美舞踊研究所の所員に。邦正美から「思考性のない者は踊る必要はない」「社会との接点のないものは作るべきではない」という教えを受け、私は内面的に何を表現するかを学びました。

—邦正美さんの教えはどのようなものだったのですか？  
邦正美から「ダンスは音楽に従属するものではなく、独立した舞台芸術だ」ということを教わり、とても魅せられました。ダンスは音楽に合わせて体を動かすのではなく、理由があつて体を動かすもの。内面的に表現したいものに合わせて動きを作り上げるものだ。彼と出会い、今までのダンスは何だったんだろうと思いました。

—「風に聴く」における「四つの風の位置づけ」とは？  
春夏秋冬ごとに4体の彫刻の配置を転換し、風神の分身と向かい合うような作品で、神に捧げる気持ちで踊ります。自然を畏敬の念で捉えて接しなければ人間は生きられないと実感し、今回もその思いをますます強くしています。

—今回、「風に聴く」は3回目の公演となりますが、どのような思いで表現し、何を伝えたいと考えていますか？

1回目は1時間半、2回目は30分、今回は40分ほどの舞台に。私は網走生まれなので、自然を表現する上で流水を抜きには考えられません。水に閉じ込められた人間や動物のイメージから、氷が割れたり盛り上がったりする様に人間の営みを映し出し、やがて流水に流されていく姿を通して抗えない人間の性を表現したいと思っています。  
—現在は作品をブラッシュアップしている段階ですか？  
ラスト7分の表現が大変。流されていくフォルムを踊り手一人一人がどう考えているのか。流されればなしなのか、抗おうとしているのか、自分は生きたいのか、死んでもいいのか。踊り手6人に問いかけているところ。自分に常に問いかけていないと、物言わぬ動きが生けない。団員もうんざりしていると思うけれど、これが現代舞踊の縮図だと思います。

—今後のご自身の展望をお聞かせください。  
過去の作品で今観て欲しい作品がたくさんあります。たとえば「曽根崎心中」。愛の形が不毛になっている現代において、愛を問う作品を団員にも踊らせてあげたい。でもモダンダンスを踊る男性がいらないのが課題ですね。田中浜みたいな男がいたらいいなと思うけど……(笑)。



表紙は、10月に上演される「風に聴く—みたびまみえる—」の公演チラシにも使われている砂澤ビッキの作品。実はこの絵のモチーフは能藤玲子さんで、1986に行われた初回公演を見るために音威子府から札幌に向かう車中で描かれたといい、翌日の早朝に砂澤さんから能藤さんへ手渡されたそう。現在は能藤さんのご自宅のリビングに飾られており、力強くも優しい筆跡が、能藤さんの舞踊の躍動感や神々しさを感じさせてくれます。



能藤玲子創作舞踊団 第19回公演「風に聴く」  
北海道厚生年金会館大ホール 1986年12月5日

—東京を去ることになったきっかけは何ですか？  
東京はいつでもそうですが、流行に流される街。当時、海外からいろいろなダンスが入ってきて、それを真似しながら取り入れる傾向があつたんですね。私は東京にいても自分は流されると思ひ、北海道で自らの舞踊を確立しようと決意したのです。邦正美から「北海道は熊が出るような土地だから、ダンスなんてやっていけない。東京で続けるべき」と反対されましたが。

### 「風に聴く」は自然への畏敬を表した 砂澤ビッキとの魂の共同作品

1959年、能藤さんは札幌に「能藤玲子創作舞踊研究所」を設立。以降、精力的に創作活動を続け、先駆的な作品の数々を北海道のみならず、東京、海外にて上演してきました。10月にクリエイティブスタジオで上演される「風に聴く—みたびまみえる—」は、1986年に初演された能藤さんの代表作の一つです。

—「風に聴く」はどのような思いで作られた作品ですか？  
「風に聴く」は、人為的に自然が破壊されているところに目を向けたいといけな思ひ、作つた作品。そういう視点を持たないと人間は生きていけないのではないか、人間の営みだけを考えてダンスを作つてもしょうがないと思ひしています。

—「風に聴く」では、彫刻家・砂澤ビッキさんの作品が舞台美術として使われてきましたが、その出会いについて聞かせてください。  
「風に聴く」の制作にあたり、以前から一緒にやつてきた砂澤ビッキさんに美術の依頼をしましたが、なかなか進まないの音威子府のアトリエを訪ねました。そのとき展覧会に出展する作品を制作中で、それがとても素晴らしくて、「これを使わせてください」とお願いしました。その作品は「四つの風」というタイトルで、「風に聴く」と同じテーマ。大きさもイメージも、作品にピッタリでした。

—「風に聴く」の制作にあたり、以前から一緒にやつてきた砂澤ビッキさんに美術の依頼をしましたが、なかなか進まないの音威子府のアトリエを訪ねました。そのとき展覧会に出展する作品を制作中で、それがとても素晴らしくて、「これを使わせてください」とお願いしました。その作品は「四つの風」というタイトルで、「風に聴く」と同じテーマ。大きさもイメージも、作品にピッタリでした。

### 自分を見つめているだけではダメ 自然があるから人間は生かされる

—能藤さんが舞踊で大切にされていることは何ですか？  
舞踊家は、常に何を表現するか考え、常に社会を見ていることが大事かなと思ひしています。私は、長い間「女」をテーマとした作品を作り続けてきました。自分自身が自立してダンスをやつていく中で、自分とは何かを深く考え、そこで「女」としての自分を見つめ



#### 能藤 玲子

1931年網走市生まれ。6歳から9年間日舞藤間流に入門。1949年網走高女卒、網走市第2中学教員。1951年現代舞踊家・邦正美氏に師事。1959年札幌に創作舞踊研究所を開所。88歳の現在まで札幌で定期公演33回の他、東京などで新作を次々発表。芸術祭優秀賞、札幌市民芸術賞、現代舞踊フェスティバル優秀賞、北海道文化賞、松山バレエ団芸術賞、江口隆哉賞など受賞多数。海外公演もニューヨーク、ギリシャ、パリ、モスクワなど多数。

# アートコミュニケーターは 市民とアートをむすぶ

札幌文化芸術交流センター SCARTSでは、  
市民とアートのつなぎ手「SCARTSアートコミュニケーター」の活動を軸とした  
アートコミュニケーション事業を展開。  
アートコミュニケーターとは何か？どんな活動をしているのか？  
参加している方々のお話を伺いました。

SCARTSアート「コミュニケーター」は、市民とアートのつなぎ手を育成するために、2018年8月より活動を開始。「市民がより能動的に文化芸術を楽しむことができるよう」にサポートする活動「多様な市民がアートを介して交流する機会をつくる活動」を柱に、世代や職業を越えた約30名の市民が参加して活動を続けています。

アートコミュニケーターとしての活動期間は3年間。「アーティストと一緒に活動したい」「アートのイベントを企画してみたい」「いろいろな人たちと交流したい」「子どもたちと関わる活動してみたい」といった思いを持った人たちが集まり、SCARTSでの実践活動を通してそれぞれの「やってみたい」を実現し、3年間の活動後は地域や職場など、自身のコミュニティで文化芸術と人々をつなぐ活動を展開することを目指しています。

SCARTSアート「コミュニケーター」の主な活動は、作品鑑賞のサポート、ワークショップの運営、オリジナル企画の立案・実施、ウェブでの情報発信など。これまで以下の実践活動に取り組まれました。

今年度も新たな講座・実践活動を展開中。市民とアートのつなぎ手として活動の幅を広げていきます。



さっぽろアートステージ  
2018鑑賞サポート



子どもワークショップ  
「つながる はじまる たんけんたい」  
ファシリテーター



川上りえ  
「Landscape Will 2019」展の  
鑑賞プログラム



●SCARTSアートコミュニケーターの  
ウェブでの「鑑賞レポート」は、こちら！



アートコミュニケーターに  
聞きました

「アートに答えはない」  
という視点が新鮮

中川貴博さん

(グラフィックデザイナー)

アートコミュニケーターの募集を知り、長年携わってきたデザインの仕事の知識を生かせると思い応募しました。アートのことは多少知っているつもりでしたが、受講してみると知らないことばかり。「アートに答えはない。だから自由に感じてください」という視点が新鮮で、結構カルチャーショックでした。講座では毎回新しい学びがあり、作品の見方が人によって異なることを素直に受け入れられるようになり、柔軟な思考に変化したように思います。アート「コミュニケーター」の活動は本当に楽しい。いろいろな人が行き交うSCARTSは場としての可能性を感じますね。残りの期間、いろいろなことが起こりそうワクワクしています。

アートに関わる活動で

自分自身が成長

田中麻貴さん(主婦)

1年前に東京から移住し、間もなくアート「コミュニケーター」募集のチラシを見つけ、以前から大好きだったアートに関わる活動がしたいと思い応募。美術に興味がない方にも、アートの魅力を発信しているメンバーの一人であることがうれしいですね。アート「コミュニケーター」の活動は、日常では関われないような方々と「コミュニケーター」が取れて、心が通じ合う瞬間を味わえるのが魅力。道内外のアーティストを支えている方々と同じ時間を共有できるのも最高の喜びです。アートに携わる方々の仕事に接することができるのも有意義で、活動を通じて自分自身が成長できていると思え、夫からも「イキイキしてるね」と言われます。

みんなのアイデアで  
創り上げる面白さ

千葉英樹さん

(元テレビディレクター)

新聞で募集告知を見て、テレビのディレクター経験を生かせると思い応募。今までアートに興味なかった人、フラッと来る人に「なんだか面白そうなことをやってるぞ」と興味を持ってもらうことが僕たちの仕事だと思っています。アート「コミュニケーター」の活動は、テレビと同じようにみんなで作っていきいけるもの。年齢も職業もバックグラウンドも異なるメンバーが、意見を言い合いながらアイデアを絞り込んでいくのが面白いですね。講座を受講していくうちに、メンバーの自己主張が薄まり、みんなが考える雰囲気が出てきたように感じます。今後は、テレビでやっていた特撮の経験を生かせるような企画をやってみようと思います。



札幌市図書・情報館 TOPICS

# 図書館の新しいカタチ 札幌市図書・情報館の 1年を振り返る

札幌市図書・情報館は、従来の公共図書館とは異なり、仕事や暮らしに関する情報提供に特化した新しいカタチの図書館。本の分類・管理を担当する3人の司書が、開館から1年を振り返り、それぞれの思いを語りました。

左から 札幌市図書・情報館 司書 渡辺由布子さん、若林はるかさん、中村吏志さん

——札幌市図書・情報館の開館から1年を振り返っての感想、意外だったことや印象的だったことは何ですか？

**中村** 当館は、既存の図書施設とは異なる、情報提供や調査相談に重点を置いた「課題解決型図書館」。オープン前には本を貸し出さないことに批判が寄せられるのではと思っていましたが、そうした苦情はほとんどありませんでした。ビジネスに特化した従来にはない図書館の運営に携わり、司書キャリアの中で最も充実した日々を送っています。

**渡辺** 他の図書館と比べて来館される方の年齢層は若く、地方や海外から訪れる方も多くいらつしやいます。図書・情報館の情報発信は主にSNSで行っていないので、市外から多くの反響があったのは意外でした。

**若林** 従来の公共図書館にはない、独自の本の分類、棚づくりが新鮮で楽しい経験に。来館者には新たに図書館のカード(貸出券)をつくる方が多く、札幌市民がいかに持っているいなかったのか、意外な驚きでした。

——オープン前の選書や棚づくりは大変だったのでは？

**中村** 4万冊近くの本を、しかも専門分野の本ばかりを選ぶのは大変でした。選書は突き詰めていけば分野が分かって、これは医療なのかAIなのか？農業なのかロボットなのか？

食なのかサービスなのか？...という風に、一冊相談しながら棚に差し込む作業の連続でした。

**渡辺** 開館したのが昨年10月で、私が配属されたのは4月。その時点では棚はまつさらで、そこに大枠でジャンル分けした本を詰め、細かく分類していきました。

**若林** 一冊ずつ本を読んで、どの棚に入れるかという作業。あれがいい、これがいいと何案も出して、いや1日寝かせようとか：そんな繰り返しでオープンに間に合うのかと思いました。

——本の分類や管理はチームで行っているのですか？

**中村** 当館には16人の司書がいて、4人1チームで4つのテーマごとに担当。面白いチーム名をつけていて、「鉄チーム」は製造業やITなど、「土チーム」は農業や林業など、「金チーム」は金融業など、「花チーム」はファッション、美容、医療看護など、それぞれのジャンル別に蔵書を管理しています。

——本棚の見せ方も独自ですよね？

**渡辺** その棚にどんなジャンルの本があるかを伝える「小テーマ」を設けていて、たとえば医療・健康の棚では内科や循環器といったジャンルは普通の図書館に近い分類をしています。鬱などの精神疾患の場合デリケートな部分も

あり、やわらかい表現で誰でも手に取りやすいような棚づくりを心がけています。

**若林** あと「ハコニワ」という本棚の部に赤い枠で囲んだ展示棚を設けていて、旬のトピックや好奇心を掻き立てるテーマを決めて、さまざまなジャンルの本を期間限定で紹介する展示。テーマの設定や選書に、それぞれの司書やチームの思いが反映されています。

——司書という仕事あるいは札幌市図書・情報館での仕事のやりがいや面白さは何ですか？

**中村** 日々、新しい情報が自分の中に蓄積され、自分自身が情報の宝箱になっていく感覚があります。実は司書同士の会話は、どんな業種の、どんな話でも延々と続いていくもの。いろんな情報や考え方に触れ、新しい発見につながっていく楽しい仕事だなと思います。

**渡辺** 公共図書館はできるだけ情報を広く網羅するのがベストだと思うけど、当館はスペースに限りがあるため、どれだけ利用者の役に立つように本を置き、棚を構成するのかが私たち司書一人ひとりの考え。いい意味で主観的な視点が入っているのが面白いところだと思います。

**若林** 情報を提供することにより、利用者の世界が広がるがあります。例えば、起業志望の方に、関連する本を紹介し、さらに相談窓口にご案内して、実際に起業された方も

いらつしやいます。私たちのお手伝いにより、利用される方が新しい世界へ踏み出す。そんなことを感じられるのが司書としてのやりがいだと思います。

——札幌市図書・情報館における今後の目標や思いをお聞かせください。

**中村** ランガナタンというインドの図書館学者に「図書館は成長する有機体である」という言葉があります。当館は新しいサービスを提供していますが、5年、10年と経っても、時代に適応して進化していかなければ成り立たない。いつまでも時代の見極めを大切にしていきたいですね。

**渡辺** 当館は、貸し出しをしらない図書館でも、それは従来からある地域の図書館があつてこそ在り方だと思えます。図書・情報館だけではなく、近くの図書館にも目を向けていただきたい。他の館との連携を広げ、図書館全体を盛り上げていきたいと思えます。

**若林** 当館では「はたらくをらくにする」というキャッチフレーズを掲げていて、さまざまな専門誌やデータベースなどの情報を提供していますが、まだまだ深いところまで読み込まれていないように感じます。多くの利用者にもっと情報を知り、もつと役立ててほしい。そのため、どんな些細なことでも気にせず、私たち司書に相談していただければと思います。

札幌市民交流プラザ1階にある「MORIHICO. 藝術劇場」は、カフェと札幌市図書・情報館が一体となった開放的な空間。観劇の待ち時間や舞台の余韻に浸るとき、読書の合間など、館を利用するさまざまな人が訪れる。

オーナーの市川草介さんは「初めて館の情報をいただき、オペラができる劇場が誕生すると聞いたとき、ちょっと衝撃を受けました。オペラができる機能と規模を備えた劇場は、日本でも極めて希少。そんな芸術劇場がある館のカフェということで、素晴らしい芸術に触れた後、その余韻に長く浸ってもらえる空間が重要だなと思いました」と言う。では、空間のこだわりとはどのようなものだろうか？店内に入ってみると目に入ったのは、アーチ状に吊るされたガラスの照明だ。「当初、オペラ劇場や宗教建築などを思い描き、天井にこだわって鑑賞する空間にしたいと考えました。天井をアーチ構造にする、鉄骨でアーチを組むといった案を出しましたが、建築する上で物理的にNGと判断されたんですね。そこで生まれたのが照明でアーチを作るというアイデア。結果、あの照明が店を象徴する一つの顔になっていると思います」。

異種類ばかり。バラバラなデザインがランダムに並んでいるが、空間との自然な一体感が醸されている。「訪れるお客さまは一人ひとりに個性があり、バラバラなフアンチャーは、みなさんに対するリスベクトの表し方なんです」と市川さん。そのかわらにある、鉄格子にドライフラワーが絡んだディスプレイがひととき目を引いた。「これはHARUMIという札幌の新進気鋭のアーティストで、フラワーアーティストの妻と美容師で古物マニアの夫のユニット。鉄格子があつて、そこに山から取ってきた葡萄蔓を這わせ、それを背景にお客さまがコーヒーを飲んでいる。その風景は一枚の絵になっている。この店では、お客さまが絵になるような構図を描いているのです」。

芸術の余韻に長く浸れる空間



## PLAZA REPORT



札幌市民交流プラザ  
メンバーズ会員限定

## 施設見学会／避難訓練コンサート

北海道初の多面舞台を備える「札幌文化芸術劇場 hiranu」。しかし、いかに劇場がすごいと聞いても中に入るためには公演やイベントのチケットを購入しなくてはなりませんし、演出の舞台裏までをうかがい知ることはなかなかできないでしょう。そこで、「札幌文化芸術劇場 hiranu」を知っていただく機会として開催しているのが、「メンバーズ向け施設見学会」です。

昨年12月に開催した初回の見学会では1回の実施に対し、定員を大幅に上回る応募があったため、今年7月の見学会は回数を3回に増やし、内容も一般向けと小学生向けに分けて実施しました。舞台技術部の伊藤久幸部長をナビゲーターに、オペラカーテンが上下、左右、そして斜めに開閉するパターンを見比べてもらい、舞台上があつて多機能な照明やバトンと呼ばれる舞台装置を紹介。親子向けには雪を降らせる仕組みも実演して紹介しました。さらに藤女子大准教授の新海節氏によるピアノ演奏を行い、演奏中に自由に席を移動しながら、場所や角度によつて異なる音の聞こえ方も実体験してもらいました。施設見学会は公演のないタイミングでないことと実施できず、日程を決めるのが大変ですが、今後も定期的に開催して、劇場の魅力を広く発信していきたいと考えています。



一つ、大きな反響をいただいているのが「避難訓練コンサート」です。こちらは法令で定められている年2回の避難訓練のうちの1回を兼ねて実施しているもので、初年度は開館前の昨年8月に実施しました。札幌市消防音楽隊による楽曲演奏の途中、地震による火災を想定した避難誘導の訓練を行うのですが、メンバーズの皆さまのご協力によつて、職員も実践的なイメージを持ちながら、より迅速で的確な訓練に励むことができました。すでに今年度の募集は締め切られておりますが、10月23日(水)の避難訓練コンサートでは「雨にぬれても」や「坂本九メドレー」が演奏される予定です。

メンバーズは常に募集中で、この2つのイベントのほかにも、札幌文化芸術劇場 hiranu が主催する公演チケットの先行発売やリハーサルの見学、さらにはプラザ内のカフェ「MORIHICO. 藝術劇場」やレストラン「DAHNE」の優待、近隣ホテル等での優待など、たくさんの特典があります。34ページの情報もご確認いただき、ぜひこの機会に入会をご検討ください。



札幌市民交流プラザでは、施設により親しんでいただくため、「札幌市民交流プラザメンバーズ」という年会費無料\*の会員組織を設けています。メンバーズの会員が受けられる、さまざまな特典の中から特に人気の高い2つのイベントをピックアップしてご紹介します。

\*DM会員のみ送料・事務手数料1,000円/年度が別途かかります。



浪越令子さん、知子さん ●伊達市  
娘の運転で伊達から来て、札幌シネマフロンティアで映画を見た後にDAFNEでランチ。冷製パスタが特に美味しかったです。今度はディナーで来たいと思います。



菅原頼子さん ●札幌市手稲区  
丸井優子さん ●札幌市西区  
これまでは映画館でのライブビューイングで楽しんでいましたが、生で見るオペラは迫力も臨場感も全然違います！札幌で見られるようになって幸せです。



後藤正則さん、衣音さん ●札幌市中央区  
ホリデーテレーリングのスタンプラリーのポイントになっていたの初めて来ました。全体的にすごくオシャレで、娘と「とても楽しそうな雰囲気だね」と話していました。



柳澤乃里さん、真結さん ●札幌市西区  
札幌文化芸術劇場 hitaruは、大きくて、舞台の仕組みもすごく、まるで海外のホールみたい！これから国内外のさまざまな公演をどんどんやってほしいです。



佐藤吉宏さん、美香さん ●東京都  
元々は札幌市民で、周りから新しく来たと聞いて寄りました。今日は一日、札幌観光を楽しむ予定。新しくできた飲食店を図書・情報館の雑誌でチェックしています。

荒木一恵さん ●札幌市中央区  
池本里佳さん ●札幌市中央区  
白石裕美さん ●札幌市西区  
元同僚3人で「トゥーランドット」を鑑賞。作品はもちろん、オーケストラにもある本格的な劇場に感動しました。これからもステキな作品を届けてください！



木元和久さん、美奈さん、理衣名さん ●神奈川県  
札幌の実家に帰省する度にきていて、今回は初めて主人も連れてきました。この空間がすごく好きで、昨日も近くで食事をした後、一人で本を読みに来ました。



市川義一さん、ヒロミさん ●札幌市西区  
開館から1年間、観劇した中で一番「トゥーランドット」かな。舞台が圧巻で、ラストも印象的でした。今後とも老も若きも集う、朗らかな場所に育ってほしい。



宇野さんご家族 ●札幌市中央区  
明るく良い雰囲気、本もゆったり読めますし、一日中過ごしたくなる場所ですね。2年目以降も興味深いイベントが開催されることを楽しみにしています。



石井洋次郎さん、知子さん、理華さん ●札幌市中央区  
中心部にあって入りやすいですし、施設も充実していて、市民として誇らしく感じています。開館から1年とは思えないほど、私たちに欠かせない施設になっています！



佐藤日菜乃さん、土居千晃さん ●ともに札幌市豊平区  
看護師になるため勉強中で、本が充実している図書・情報館を活用させてもらっています。あと、オシャレなMORIHICOもインスタ映えを狙って結構行ってます(笑)。

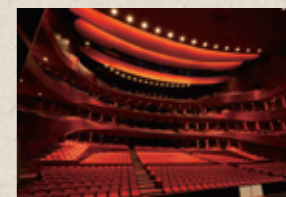


武田篤哉さん ●北広島市  
山形祐太さん ●札幌市豊平区  
MORIHICOと図書・情報館をよく利用しています。MORIHICOは空間がインスタ映えするので気に入っています。フルーツサンドがすごくおいしいので、今度頼んでみます。

舞台を観たり、イベントに参加したり、アートに触れたり、食事をしたり、本を読んだり。みんなはどんな目的で来館しているのかな？  
来館されていた方々に1周年を迎えた札幌市民交流プラザの感想や来館理由などを聞いてみました。

# 開館から1年 札幌市民交流プラザ、どうでしょう？

SNAP & MESSAGE



鈴木康広さん ●東京都  
ここは誰もが自分の居場所を見つけられる場所だと思います。自然光が入る2階のこの空間も、僕の「まばたきの葉」という作品を展示するのに最適な場所でした。



須山博亮さん、いつみさん、智貴さん ●室蘭市  
地下駐車場で車を停めて、図書・情報館を家族で利用しています。今日でもう4回目かな。前に来たときはビーズでストラップを作るワークショップにも参加しました。

古田紫さん ●札幌市豊平区  
小山彰子さん ●札幌市中央区  
永瀬麻衣子さん ●札幌市中央区  
勤務する福祉施設の子どもたちが出演する、ダンスの発表会を見にクリエイティブスタジオに来ました。みんな緊張MAXでしたが、無事に終わってホッとしました。



橋本貴史さん、由香理さん ●恵庭市  
以前から来たかったのですがタイミングがなくて、今日ようやく来ました。もう1年経つんですね。手軽にアートに触れられて、とてもいい場所だと感じました。



ジャン・エマニュエル・クレマンさん ●札幌市北区  
フランスから仕事で札幌に来ています。滞在は2年間の予定で、現在7ヵ月目。今日はリサーチの仕事で必要なコンピュータの本を探しに図書・情報館に来ました。

*I love this place!*



●札幌市図書・情報館の来館者数  
**1,100,001人**

札幌ドームでのコンサートを  
約20回も満員にする人数です

※札幌ドームの最大収容人数を53,820人で  
計算しています。

## データで見る 市民交流プラザの1年

「1年間にどのくらいの人たちが利用したのか」など、  
市民交流プラザに関するさまざまなデータを  
まとめてみました。

※人数はすべて2018年10月7日～2019年8月末までのものとなります。(328日)



全員が手をつなぐと、  
その距離は約1,500km!

それって実は  
北海道新幹線で結ばれる  
札幌・京都間と  
ほぼ同じなんです!



●札幌市民交流プラザの来場者数  
**1,892,343人**

※成人男性が手を広げた幅は80cmとして計算しています。

●札幌文化芸術劇場 hitaruでの  
公演・イベント数

**183**公演  
/328日

1年の半分以上の55.8%も  
公演が行われていました

公演以外の日は  
リハーサルや仕込みの  
準備があるんだ!

●クリエイティブスタジオでの  
公演・イベント数

**170**公演  
/328日

仕込み準備や  
リハーサルもいれると  
90%の稼働率です!

●MORIHICO, 藝術劇場で  
飲まれたドリップコーヒーの数

カップを積み上げるとなんと!  
さっぽろテレビ塔17.5本分とほぼ同じ高さに

**32,109**杯

※さっぽろテレビ塔の高さを147.2mで計算、カップの高さは実際に  
使われているサイズ(8cm)で計算しています。

※カップ数は2018年10月7日～2019年7月末までの数となります。



富本文子さん、茉依さん

●札幌市西区  
今日は施設見学会に参加しにきました。  
札幌にこういう劇場ができることを待って  
いました!これからも素晴らしい舞台が見  
られることを期待しています。



野口聡子さん、慧さん、椋さん

●札幌市中央区  
子どもたちは、ハバとアンパンマンのイベ  
ントに来たことがあるのですが、私は初め  
て。思っていたよりも図書館が広い印象を  
受けました。次は家族全員で来たいです。



下田蒼さん ●東京都

伊藤千絵美さん ●滝川市  
バスの車窓から見て、何の施設が気になっ  
て立ち寄りました。ガラス張りの外観がキレ  
イで、外から窓越しに勉強している姿が見  
える構造になっているのも面白いですね。



上田亜希子さん、怜旺さん

●札幌市西区  
札幌文化芸術劇場 hitaruに今日、  
初めて入りました。広くてキレイで、音  
もすごくいいですね。なかなかチケット  
が取れないですが、早くここでオペラ  
を見てみたいです!



柴田瑠美さん、光優さん

●札幌市北区  
札幌市民交流プラザに来たのは  
今回で2回目。1回目は札幌文化  
芸術劇場 hitaruにコンサートを見  
に来たのですが、音がすごく良かった  
のが印象的でした。



美濃杏香さん ●江別市

小神野綾香さん ●江別市  
笹森匠海さん ●札幌市中央区  
今日はSCARTSの展示会でアルバイト。  
子どもたちが楽しんで参加する姿を見  
ると、こっちはうれしくなります。交流プラザが  
3人とも日頃からよく使っています。



若原百花さん、中村清正さん

●ともに札幌市中央区  
よく利用するのは図書・情報館。レポート  
を書くときに昔の新聞を調べたり、すぐ  
を重宝しています。10月にはあいみよんのラ  
イブで、初めて劇場に行く予定です!



沼山良明さん、寿美枝さん

●札幌市東区  
●札幌市豊平区  
今日はクリエイティブスタジオで演劇を鑑  
賞。SCARTSを利用することが多く、ワー  
クショップに参加したり、主催者としてイベ  
ントにも使わせてもらいました。

湯口信夫さん、芳子さん

●札幌市豊平区  
美術や芸術が好きで、毎週のようにイベントを見に  
来ています。今日も外から空気で膨らむ透明の人  
形が見えて、なんだろうと思って立ち寄りました。





le trois  
**キレイ、ステキ、オイシイ。**  
**le trois**  
 ル・トロワ

地下直結

大通西1丁目  
 (大通駅24番出口直結)

営業時間 10:00~21:00  
 (レストランは11:00~23:00)  
 ※店舗により異なる場合があります。

創造都市さっぽろ WAON

**創造都市さっぽろ**  
**WAON**

「創造都市さっぽろWAON」は、札幌市の文化芸術振興を応援します。

- ご利用金額の一部を札幌市に寄付させていただき、札幌市の文化芸術振興に活用されます。
- 本カードデザインは、札幌市立大学の学生が制作したイラストを採用しました。

AEON イオン北海道株式会社



## 「都心のオアシス」を目指して

札幌市民交流プラザは、「札幌文化芸術劇場 hitaru」(ヒタル)、「札幌文化芸術交流センター SCARTS」(スカーツ)、「札幌市図書・情報館」の3施設からなる、都心の新たな文化芸術の拠点として、昨年10月7日に誕生しました。

開館以来、hitaruでの公演やSCARTSでの展示、イベント、図書・情報館での調べ物やミーティングなど、毎日たくさんの方々がさまざまな目的で来館され、1周年を迎える頃には、来館者数は200万人に到達する勢いです。

また、プラザにはこれら3つの施設に加えて、図書・情報館の本を持ち込めるカフェ「MORIHICO. 芸術劇場」や北海道の食材の素晴らしさを発信するレストラン「DAFNE」などもあり、お客様が、それぞれのスペースで思い思いの時間を過ごされていることをたいへん嬉しく思っています。

今後も多くの人が集い、都心に新たな賑わいを生み出していけるように、複合型文化

施設であるプラザの特徴を活かし、文化芸術を身近に感じながら、潤いやゆりのある時間を過ごしていただける「都心のオアシス」を目指していきます。

併せて、新幹線の札幌延伸を控え、令和という時代とともに札幌の都心部が大きく変貌を遂げていく中で、札幌の魅力を文化芸術を通して、国内外に発信していく拠点としての役割も担っていきたくと考えています。

文化施設の真価は、建物の大きさや美しさだけではなく、そこで、何が行われ、どのように利用されているかにあります。

プラザでの公演や各種イベントの情報については、本誌「WAVE TIMES」やイベントスケジュール「PLAS」、公式ホームページなどを通じて、タイムリーに発信していきますので、ぜひご注目ください。

皆様のご来館、ご利用を心よりお待ちしております。

札幌市民交流プラザ  
 館長 石井正治





trans cosmos  
people & technology

探せる・見つかる・相談できる/  
求人サイトなら

Work it  検索

血液の大切さ、  
知っていますか？

勇気会 医療法人



北央病院

生活協同組合コープさっぽろ

組合員の皆様の暮らしに必要な保障を支える

組合員の声から生まれた  
**CO-OP 共済**

家族一人ひとりにあったコースを  
お選びいただけます

CO-OP共済 **たすけあい** CO-OP共済 **あいふくす**  
プラチナ85 **ぞとあい**

資料請求はお気軽に! ☎ **0120-25-9431** □ <http://coopkyosai.coop>  
コープさっぽろ各店舗またはトック配達担当者までお問い合わせください



~北の大地とともに~

北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. <コカ・コーラ指定会社>

東儀秀樹×古澤巖  
×coba コンサート ツアー2019 **FINAL TOUR**

55 ▶ 60  
新たな旅へ。  
さあ、はばたけ、音楽大飛行!

2019年 **12月6日** 金  
開演 18:30 [開場 18:00]  
札幌文化芸術劇場 hitaru  
全席指定 (税込) ※未就学児入場不可  
S席 8,000円 A席 7,000円 B席 6,000円

ご購入  
お問い合わせ **道新プレイガイド** TEL.0570-00-3871  
営業時間 10:00~18:00(日曜定休)

TANAKA MEDICAL GROUP

大きな輪であなたを支えます

笑顔絶やさず。優しさ忘れず。  
タナカメディカルグループ

病院

- 札幌田中病院 334床
- 札幌緑誠病院 342床
- 札幌宮の沢病院 355床

介護

- 介護療養型老人保健施設 博友会 127床
- 特別養護老人ホーム 愛輪園 90床
- 介護老人保健施設 愛の里 100床
- ケアハウス ホワイトキャッスル 100床

住まい サービス付き高齢者向け住宅

- ライフコート宮の沢 83戸
- ライフコート西野 82戸
- ライフコート手稲 81戸
- ライフコート手稲西 78戸
- ライフコートガーデン南館 81戸
- ライフコートガーデン東館 80戸
- ライフコート西宮の沢 80戸
- ライフコートステラ 51戸

タナカメディカルグループ  
[www.tanakamedical.net](http://www.tanakamedical.net)

安全と豊かな「カーライフスタイル」をトータル・サポートいたします。

Hokkaido  
**BUBU**  
IMPORT CAR DEALERS  
**MID**

株式会社 北海道フブ <https://bubu-iss.com>

Hotel Monterey Group

ホテルモントレで  
異国情緒を味わう

まるで異国に訪れたようなヨーロッパ  
テイストの館内で優雅なひとときを  
お過ごしください。

ふぐ・すっぽん・はも 料理

**文太郎**

予約・お問い合わせ TEL:011-513-3727 予約制  
住所/札幌市中央区南4条西3丁目  
第3グリーンビル4階  
営業時間/17:00~23:00 定休日/日曜・祝祭日

旬菜旬魚 うたげ  
美術品を鑑賞しながら  
旬の料理に舌鼓

予約・お問い合わせ TEL:011-552-7888  
住所/札幌市中央区南4条西2丁目  
ホシビル8階  
営業時間/17:00~23:00 定休日/日曜・祝祭日

葡萄酒・西洋料理 クロ・ド・ソレイユ

予約・お問い合わせ TEL:011-531-3151  
住所/札幌市中央区南4条西3丁目  
第3グリーンビルB1  
営業時間/18:00~25:00 定休日/日曜・祝祭日・第3月曜

TAIYO GROUP <http://www.taiyogroup.jp/>

RENSEIKAI GROUP

「伸びる」「つまる」  
にはフケがある。

個別指導 **3.14π** 可能性は無限

冠婚葬祭  
あいプラン **つみたててる?**

AIPLAN **会員募集中!**

(お問い合わせ・お申し込みは)  
●お客様相談センター  
☎ **0120-335-924**

MORIHICO.  
Coffee & Something

MORIHICO. 芸術劇場 北海道札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ1F

北海道ミルククッキー  
**札幌農学校**

KINOTOYA

北海道大学認定

チラシクーポンが  
スマートフォンに届く!  
丸井今井  
札幌三越 **LINE**

ご登録は  
コチラ

maruimai MITSUKOSHI

hitaru OFFICIAL SPONSORS

hitaru OFFICIAL SPONSORS

おかげさまで、東急百貨店は創業85周年。



〒060-8619 札幌市中央区北4条西2丁目 TEL.011-212-2211(代表) www.tokyu-dept.co.jp/sapporo  
営業時間:10時-20時(10階レストラン街[ダイニング ダイニング]11時-22時30分 ※一部店舗は除く)

伊藤組土建株式会社

代表取締役社長 玉木 勝美

札幌市中央区北4条西4丁目1番地 TEL 011(241)8477

誠実の一路を開拓者精神で貫く

岩倉建設株式会社



札幌大谷大学 札幌大谷高等学校  
札幌大谷大学短期大学部 札幌大谷中学校  
札幌大谷大学附属幼稚園 札幌大谷学園附属音楽教室

札幌市民交流プラザメンバーズ

## 会員募集中

「札幌市民交流プラザメンバーズ」は、市民交流プラザにより親しんでいただくための会員組織です。

チケットの先行発売や公演情報の提供など、さまざまな特典をご用意しております。皆さまのご入会をお待ちしております。

ウェブ WEB会員 年会費無料 | ダイレクトメール DM会員 年会費無料 (但し、送料・事務手数料1,000円/年度)

特典 メールマガジンの配信 | 特典 情報誌「WAVE TIMES」、イベントスケジュール「PLAS」等の送付

WEB会員・DM会員に共通の特典: ◎主催公演のチケット先行発売 ◎リハーサル見学 ◎施設見学会 ◎プラザ内のカフェ・レストランでの優待 ◎プラザ近隣のホテル・飲食店等での各種優待

札幌市民交流プラザメンバーズ事務局

〒060-0001 札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ2階 札幌市民交流プラザチケットセンター内  
TEL.011-271-2345 (10:00-19:00、休館日を除く)

※札幌市民交流プラザはメンバーズ事務局業務を(株)道新文化事業社(道新プレイガイド)に委託しています。

入会方法、規約など詳しくはWEBサイトをご覧ください ▶ <http://sapporo-cp-members.jp/>

